

## 第16回最上小国川流域環境保全協議会の概要について

標記の協議会について下記のとおり開催しました。

「工事の進捗状況についての報告」「前回までの協議会における指導事項と対応」「平成29年度環境影響調査の報告」「来年度の施工予定」および「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。その概要は下記のとおりです。

### 記

1 日 時 平成30年3月8日（木） 13:30～15:30

2 場 所 最上総合支庁203会議室

3 出席者 11名（2名欠席）

原慶明委員長、伊藤武美委員（伊藤英一代理）、今井正委員、梅田信委員、大澤康浩委員、菊池義明委員、高橋光明委員（信夫榮代理）、忠鉢孝明委員、中嶋寿幸委員（田中清治代理）、柳原敦委員、横倉明委員

### 4 審議の結果

各委員からの主な御意見（要旨）

- ・梅田委員 【濁度観測】
  - ・濁度観測について水深も浅いためかデータ欠損が散見される。観測地の見直しを検討してはかがか。
  - ・水質データはダム供用後の事業影響を検討するにあたり重要となるため、定期採水調査を継続し、データの整理を行っておくこと。
  - ・欠測となっていない期間については、データの妥当性の精査を行うと共に、本河川の濁りの特性を示す重要な情報となるので、丁寧にデータ分析を行うことが必要である。
- ・今井委員 【猛禽類調査】
  - ・希少猛禽類の繁殖活動状況により、生息や繁殖に影響を及ぼしているものではない。【ヤマセミ調査】
  - ・ヤマセミの繁殖が確認されており、工事が影響を及ぼしているものではない。
- ・横倉委員 【イチゴナミシヤク調査】
  - ・イチゴナミシヤクは生態も不明であり希少性が高く、本調査では見つかっていないが、希少種保護の立場から調査を継続してほしい。【その他】
  - ・ヒメギフチョウについては当該調査では確認されていないが、山形県内で増加傾向が見られるので、生息状況調査を継続してほしい。
- ・原委員長 【ナガミノツルケマン調査】
  - ・試験播種で本種の適地となる生育条件がほぼ確認されたので、その条件に合った追加の試験播種を検討してほしい。【付着藻類調査】
  - ・付着藻類の(現存)量はアユの成育に直接影響する。しかし、アユの生育状況を分析する際には、付着藻類の増殖要因となる濁度や降水量だけでなく、天然遡上率や放流の量も考慮して検討してほしい。
- ・忠鉢委員 【魚介類調査】【底生動物調査】【付着藻類調査】【河床状態調査】
  - ・河川の生物に生育環境の影響があらわれるまで長期間を要し、繰り返し起こる増水等の影響による河川の変化も考慮しながら調査結果を見ることが重要である。
  - ・アユの生育状況は、基礎生産力としての付着藻類やアユの魚体計測データを用いて検討することが重要である。
- ・信夫代理 【濁度観測】
  - ・濁水処理プラントの確認立会いをしており適正に処理が行われている。ダム工事による濁りの影響は無いと考えられる。
  - ・水質調査について濁度観測と関連付けて整理してほしい。
- ・柳原委員 【その他】
  - ・工事による河川の転流時期なども含めて整理することで、データを比較すれば見やすいと考えられる。

### 【開催概況】

